

合掌

## 入門の動機

ある年少拳士、S君の昇級試験の宿題作文です。

なぜ少林寺拳法を習おうかと思った理由は3つあります。

一つ目は、お母さんに、「やってみない?」

と言われて、体験に行ったことです。どんなことをやっているのかなと思って、体育館の中に入ったら、鎮魂行をやっている、すごいな、できるかな、と思って見ていました。すると、最後の(打棒を打った後の)

「アッ!」

の時に、かっこいいなと思ったので、体験が終わって、お母さんが、

「どう。やってみる?」

と聞いたので、ぼくは、

「うん。やってみたい。」

と言いました。

二つ目は、お兄さん達のやる、突き、蹴り、受けがとってもかっこよくて、やさしく教えてもらって、「ぼくも、お兄さんみたいになって、突き、蹴り、受けがうまくなって、後輩に教えたい。」という気持ちになれたからです。

三つ目は、先生がよくみんなを仲良くしようとか、援け合おうとか、大事な話をしてくれることです。

そして、少林寺拳法を始めて思ったのは、少林寺拳法をやっている友達、みんなやさしくて、すぐに仲良くしてくれるということです。仲のよい友達がたくさんできるのが、少林寺拳法の良いところだなと思いました。

学校でも先生のしてくれた話の、援け合おうということが実行できたら、とってもうれしいです。少林寺拳法をやったよかったなと思いました。

少林寺拳法を始める理由は人様々です。強くなりたい、演武がかっこよかった、健康のため、開祖の教えに惹かれた、先輩や友達に誘われた等々。理由はいろいろあれ、「やろう」と決めたのは自分です。そして、そこで多くの出会いがあり、気づきがあり、続けることで自己の成長があります。それは、自分の生き方を考えることであり、常に自分を振り返りながら、人は変えられるということを信じ、自己修練に励み、学び続け、“世の為人の為に行動できる人”であろうとすることです。そして、そういう自分の在り方に、生きがいを感じるということです。

S拳士の入門のきっかけは、お母さんに勧められたということですが、鎮魂行の雰囲気や気合、先輩拳士の技に憧れ、自分もそうなりたいと思い、そして、自分も後輩に教えられるようになりたい、少林寺拳法の教えの一つである“援け合う”ことを実践したいと思うようになったのです。素晴らしい気づきです。しかし、そのように気づかせてくれたのは、同じ年少の拳士達のやさしさであり、道場の先輩拳士達の温かい雰囲気だったのだらうと思います。

いつも法話で話していますが、少林寺拳法の目指す理想境とは、まず、自分たちの周りから築いていくものです。そのことをS拳士はしっかりと理解し、気付いていたのです。これからも、私たちは、少林寺拳法の修練は何のために行っているのかということ、自覚し、日々研鑽に励むことが大切なのだらうと思います。

結手

## 連絡事項

### 1 保険について

道院では、スポーツ団体傷害保険に加入しております。練習中の怪我については、保険が適用されますので、怪我等で通院された場合はご連絡ください。

### 2 道院ホームページについて

埼玉北浦和道院と埼玉幸手道院のホームページを開設しています。今後、変更になった練習場所等は、ホームページでも確認できますのでよろしくお願い致します。